福島に住む人々のルーツを辿る演劇集団　―　劇団 120○EN

劇団紹介

福島市にまつわる歴史、民話、史跡などをモチーフにした
創作劇を定期的に上演しています。

◇劇団概要

■劇団 120○EN とは

劇団 120○EN は、福島市で活動するアマチュア劇団です。「福島に住む人々のルーツを辿る演劇集団」として、福島に伝わる民話や歴史といった昔ながらのものを題材にしつつ、20 代の感性を加えた創作劇をこれまで計２１本公演しています。現在、20 代のメンバー 14 人で活動をしています。

2011 年 3 月 11 日、公演本番中に東日本大震災に被災したメンバーを中心として、翌月 4 月に旗揚げ。当時、劇場が使える状況ではなく、市内で予定されていた文化公演が次々に中止となる中で市民の方から「演劇が見たい」との声を頂き、福島市民活動サポートセンターを使って公演を行った。以降、12 月まで毎月オリジナル作品を上演しました。

2013 年から、福島のルーツとなる歴史や、民話を元にしたオリジナル作品を上演することで、福島という地域を好きになってもらおうと方針を決定。公演場所も、劇場にこだわらず神社の神楽殿や古民家で積極的に公演を行い、新しい観光地を作るのではなく、元からある福島の建物や場所を、若い人々に知って頂き、観光地とすることを目指しています。

2016 年は、旧廣瀬座にて「西地区の歴史再発見事業」として、地域に残る義民伝を元にした創作劇「思わざらまし 六つの花」を上演。小学生からご年配の方まで、幅広い層にご好評いただき、2 ステージで 500 人を越える方に観劇していただきました。

■これまでの公演題材

佐藤太郎右衛門（江戸時代・佐原地区の義民）、一盃森の長次郎（福島市民話）、文知摺石伝説（福島市民話）、思いの滝の伝説（福島市土湯に残る伝説）、兎と亀（福島市羽根山に残る民話）、庭坂事件、大野九郎兵衛（人物・元赤穂藩家老・福島李平にて切腹の説有）、三島通庸（元福島県県令）、姥ヶ梅（福島市史跡）、松齢橋（福島市歴史的建造物）、木村吉清（福島城主）など

■これまでの公演会場

・歴史的建造物　…　旧廣瀬座、福島護国神社神楽殿・御倉邸・夢奏蔵
・公共施設　…　福島テルサ・福島市市民活動サポートセンター・こむこむ
・公演ゆかりの場　…　阿武隈川隈畔船着場・長楽寺
・個人商店等　…　Black comet club（バー）

■劇団名の由来

劇団 120○EN は、自動販売機の缶ジュース１本の価格（２０１１年当時）の１２０円に由来し、私たちのお芝居を自動販売機の缶ジュースに例えて命名しました。
缶ジュース一本を買うように、まずは、気軽に気楽に私たちのお芝居を楽しんで欲しい。心が乾いた時、何かが欲しい時にお芝居を届けたいといった想いが込められています。また、沢山の味が楽しめる缶ジュースのように、色々な味のお芝居を届けたい、沢山のチャレンジをしていくという目標も込められています。
「１２０円」ではなく「１２０○EN」としているのは、この「えん」という音に様々な意味を込めているからです。

・僕たちが届ける「演」劇
・演劇を通して生まれる人と人とのご「縁」
・ご縁がつながり、一つの「円」となる
・円になって笑い語り合う「宴」

他にも「炎」「艶」「援」「塩」…と、沢山の意味を込め「えん」を「EN」と表記し、１２０と EN の間に「輪」の記号、○をはさみ劇団１２０○EN と表記しています。

■これまでの公演

２０１６年

第 21 回『牛の角』　第 20 回『思わざらまし 六つの花』　第 19 回『怪・世良・世良』

第 18 回『命名福島-吉清伝-』　第 17 回 『笑わない花』

２０１５年

大人の 120○EN 1st&2ndstage 『ヴェルモット・フラワーズ』

第 16 回『辛かろう、夜逃げ家老』　第 15 回『丑三つ人』　第 14 回『兎と亀』

２０１４年

第 13 回『歌舞伎デカ 前田刑事』　第 12 回『椅子語り』　第 11 回『しろ』

２０１３年

第 10 回『ビー玉雨と眠たげな夏』　第９回『妖怪遺書』

２０１１年

第８回『学乱』　第７回『涼風』　第６回『オカマの化粧、ヒーローの衣装』

第５回『サン・ジュスト』　第４回『誰が僕の猫を殺した？』　第３回『神話前夜』

第２回『ヤンキーとストーカー』　第１回『拍手集めたオルゴール』

■劇団員（現在１４名で活動）

１．	代表／脚本／演出	清野　和也	男	２７才
２．	副代表／舞台美術	増田　祐介	男	２８才
３．	監事／演出／映像	齋藤　勝之	男	２５才
４．	会計／衣装／役者	川島　ゆかり	女	２５才
５．	役者	鈴木　優斗	男	２６才
６．	役者／衣装	安達　駿希	男	２５才
７．	役者／大道具	那須　大洋	男	２６才
８．	役者	萩原　功太	男	２７才
９．	役者／照明	押切　みちる	女	２５才
１０．	製作／役者	鈴木　里実	女	２５才
１１．	役者	奈良　夏妃	女	２４才
１２．	役者／制作	加藤　美野里	女	２５才
１３．	役者／メイク	白根　愛美	女	２４才
１４．	役者／小道具	高橋　大貴	男	２６才

■公演写真

第 21 回公演 思わざらまし六つの花より

第 21 回公演 思わざらまし六つの花より　旧廣瀬座　舞台装置

第 22 回公演 牛の角より

第 20 回公演 怪・世良・世良より

第 20 回公演 怪・世良・世良より

大人の 120○EN ヴェルモット・フラワーズより

第 18 回公演 兎と亀より

第 19 回公演　笑わない花より

第 17 回公演 歌舞伎デカ前田刑事より　@　長楽寺 禅堂

第 11 回公演　ビー玉雨と眠たげな夏より　@　阿武隈川隈板

第 9 回公演 妖怪遺書より　@　福島護国神社

第 10 回公演　しろより　@　夢奏蔵

■さいごに　僕らの想い

この街に眠っている、面白くてワクワクする民話、歴史、史跡、人物…。
10 年後、僕らの芝居の内容は覚えていないかもしれません。
でも、舞台の僕らと客席のあなたとで一緒に掘り起こした
「ものがたり」はきっと心のなかにあり続けます。

あなたに子どもができて、その子と、ぎゅっと手を繋いで
この街を散歩したときに、こんな会話をするかもしれません。

「この山にはね、きつねさんが住んでいてね」
「きつねさん？」
「そう、そのきつねさんは、いたずらぎつねで…」

こんな会話が生まれたなら。
きっとあなたの子どもはおとなになっても、
ふるさとの山を見るたびに、
ものがたりとあなたの手のぬくもりを思い出すことでしょう。

街のいたるところに、あなたの「ものがたり」がある。
ものがたりが溢れる街、福島市。

子どもたちは、そんな街のことを
大人になっても大好きでいてくれる。

僕らは、それを演劇作品を通して
お手伝い出来たらいいなぁと、そんな風に思っているのです。

代表 せいの かずや

◆お問い合わせ先◆

担当：清野 和也

電話：080-1849-4401（セイノ）

mail：info@120en.com

住所：〒960-8242

福島県福島市坂登 9-20